

第1章 地方拠点都市地域の整備の方針に関する事項

1 地方拠点都市地域の現況

(1) 地域の位置と構成

① 地方拠点都市地域の名称

「豊田三好地方拠点都市地域」

② 地方拠点都市地域の構成

本地域は、豊田市と三好町で構成される。

(2) 自然状況

本地域は、愛知県の中心部、名古屋市の東方約20～70kmに位置し、三河高原を形成する山間部と、西三河平野につながる丘陵部・平野部からなり、長野県を源に三河湾へ流れる矢作川が貫流している。

山間部には自然が豊富に残り、香嵐渓や三河湖周辺などをはじめとする地域は愛知高原国定公園、天竜奥三河国定公園に指定され、広域的に集客する観光地として広く知られている。丘陵部・平野部では、矢作川・境川流域の肥沃な沖積層地帯等を中心に優良農地が広がっている。

気候は、表日本式の温暖寡雨の気候区分に入るが、山間部は準高冷地性で、丘陵部・平野部と比較して低温、多雨となっており、地域内でおおよそ東西二つに大別することができる。

(3) 歴史

三河地方では最古に類する縄文土器が出土し、平安時代に高度な焼成技術を要する陶器が盛んに生産された猿投山西南麓古窯址が分布するなど、歴史的に早くから開け、室町時代には豊田市の松平郷で徳川家の祖先である松平氏を輩した。

また、飯田街道は信州と尾張・三河を結び、人と物資が往来する交易の道として発達し、江戸時代には足助や稲武などが陸路の要衝として繁栄した。

近代以降、平野部では紡績により工業化が図られ、生糸需要の衰退後の昭和12年にはトヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）が、挙母町（現豊田市）内に設立され、その後飛躍的な発展を遂げ、日本有数の内陸工業地帯を形成してきた。

図1-1. 位置図

